

1 本年度の重点目標

強い子ども、助け合う子ども、考える子ども、明るい子ども
～子どもたち一人一人が『自分は大切にされている』と実感できる教育～

2 本年度の経営方針

- 組織で育てる（普通の授業・生活を大切に作る組織、見通しをもってつなげていける組織、教育課程の見直しを図る組織、家庭に働きかけ続ける組織、一人一人の背景を尊重する組織）
- 授業で育てる（日々の授業の充実、常に気に留めておきたい心がけ～環境整備、教室の言語力を鍛える、45分の基本の流れを習慣にする）
- 地域とゆるやかにつながって育てる（地域の資源<<人・団体・施設>>の力を借りる、勤労生産的行事

3 自己評価・学校関係者評価 (A:十分 B:おおむねよい C:やや不十分 D:不十分・要改善)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学 ぶ 力	児童の実態に即して、一人一人の学ぶ力を高めるよう、心がけて授業に取り組んでいるか	A	・きめ細かな見取りとサポートを通して、児童の実態に応じた授業づくりを行うことができた。今後も個人差に対応するため、学びのサポーターを活用する。各学年で身に付けさせたい力を意識し、対話を通して児童の思いを感じ取り、授業づくりに生かす。	A	A
	「学ぶ意欲を高める教材化の工夫」や「学び合いを支える教師の関わり」を意識して授業を実践しているか	A	・子どもたちが「学びたい」「やってみよう」と意欲を持ち続けられるように、「あれ？」となるような課題を提示するなど導入を意識して授業づくりを行った。 ・今後も子どもたちの学ぶ意欲を高め、学んだことが実生活に生きて「やってよかった」と実感できるような教材化を目指す。	A	A
	45分間の学びの流れが習慣となるようにいつも授業を進め、子どもたちには学習規律の徹底を図っているか	A	・子どもたちが45分間の見通しをもてるように、課題→自己解決→交流→振り返りのサイクルを意識して指導した。 ・お互いに信頼し合う雰囲気大切に、自己肯定感をもって学習に向かえるよう関わっていく。また、学習時間と休み時間の切り替えができるよう関わっていく。	A	A
	毎日の学校での学びと家庭学習を連携させて「学び続ける力」を育成しようとしているか	B	・意欲をもって家庭学習に取り組めるように、プリントなどを準備し、家庭へ呼びかけるなどして「学び続ける力」を高めてきた。また、すぐで宿題の解答を配信するなど、子どもの学習の習慣化を目指してきた。 ・「個に応じた家庭学習」が身につくように「家庭学習カード」の取組を継続したい。 ・朝のぼがらタイムの「読書の時間」「読み聞かせの時間」を活用し、読書好きの子を増やす。	A	A
	地域の教育力や地域の資源を活用した総合的な学習や生活科を実践しているか	B	・出前授業の活用など、より本物の教材を生かした学習を推進してきた。 ・住んでいる地域（ふるさと）を大切に思う心を醸成するため、地域の資源（人・団体・施設）を生かした学習を推進する。3・4年「水辺の楽校」2年「お店訪問」1年「五福会の方との交流」等。	A	A
学校関係者評価者による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・ひかり学級の創設、まなびのサポーター等、個々の成長に即した学びの提供は高く評価する。 ・学力においては、他校比較においては決して高い水準ではない現状の改善に期待する。 ・すぐるを活用した家庭での宿題採点は、子どもの学力の確認にも寄与し評価する。 ・学びへの意欲を促すのはとても難しく、大きな課題に対する取組は総じて高く評価できる。 			
豊 か な 心	学級活動の充実を図り、学級や学年（ブロック）の仲間意識や思いやりの心を育てることができているか	A	・学習活動のグループ活動や話し合い活動の中で、リーダーシップやフォローアップの意識を高めるように声掛けを行った。高学年の子どもたちが、グループの中で手本となるような姿が多く見られているので、引き続き評価しながら推進する。 ・他学年への関わりについて考えることができるように、低・中・高のブロック活動の交流を多く取り入れる。	A	A
	学校行事は、集団における望ましい態度を育てる場となり、日常の学習成果の発展を図る積極的な取組になっているか	A	・学校行事では、個人目標の達成を目指すだけでなく、集団目標の達成を目指した。各学年の実態に応じた集団目標を設定し、取り組む。各学校行事の集団目標を年間の中で位置づけて、推進した。 ・1年間のスパンで各行事の目標を設定し、指導の積み重ねを大切にした教育計画を作成し取り組む。	A	A
	委員会活動やクラブ活動は、自主的・社会的な生活態度や学校生活をより豊かにする態度を育てているか	A	・高学年児童が積極的に取り組めるようサポートしながら、自分たちで学校生活を豊かにしたいという思いを引き出し、学校全体で憧れの存在の高学年を育てるよう関わってきた。 ・にじいろ活動（異学年活動）では、集団の中で自分の役割を考えさせ、それぞれの役割に気付かせ、力を発揮させたい。	A	A
	きまりやルールを守った行動と月目標を意識した行動の他に、「あいさつ」の取組の成果が見られたか	B	・挨拶は自分から積極的に行うなど、よくなってきている。廊下歩行は、体育館前や玄関前などつい走ってしまう様子が見られる。今後も挨拶や廊下歩行は継続して取り組んでいく。 ・きまりやルールが子どもたちに継続して意識できるように、繰り返し学級活動や道徳などで取り上げ、推進する。	B	A

	自他を尊重する態度を育成し、未然にいじめを防止するとともに、いじめがあった場合は、組織で素早く対処したか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・相互承認の感度をあげることで、互いの良さを認め合い、安心して過ごすことができる集団作りを目指した。 ・「子どものいる場には教職員がいる」を目指し、休み時間、給食・清掃時間などの合間も、学年、ブロック・担任外の連携を強化して見守る。 ・いじめがあった場合には、丁寧な聞き取りや保護者との情報共有を行い、いじめ対策委員会において職員全体で共有し対応する。 	A	A
学校関係者評価者による意見			<ul style="list-style-type: none"> ・にじいろ活動を通した心の成長は高く評価する。 ・今後は地域連携を含めた「人生の先輩方」との交流による思考力と社会性の成長を期待する。 		
健やかな身体	進んで運動に親しむための指導を充実させることで、運動に対する関心や体力の向上が見られているか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの体力向上のため、跳び箱やマットを使った「器械運動週間」を推進した。今後はさらに、大縄や縄跳び運動を奨励するなど、体を動かすことができる機会を作っていく。 ・安心して運動ができるように看護体制を整え、外遊びを推奨するなど三間(時間・空間・仲間)を創出し、運動機会の充実を図る。 	A	A
	健康に関する指導や食に関する指導を充実させることで、心身の健康に対する意識の向上が見られているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・シャボテンログを通して児童の心身の状態を知り、状態の悪い子には聞き取りをするなどして対応してきた。引き続き対応する。 ・栄養士と連携を密にしなが、掲示板等を活用して食に関する指導を行う。 	A	A
学校関係者評価者による意見			<ul style="list-style-type: none"> ・心のケアと運動能力の低下を避けるべく取組は評価する。 ・小規模学校の特性を生かした心身の育成に期待する。 		
信頼される学校	地域の団体や町内会、保育園や中学校との交流を通し、「生きる力」を培うなど、地域と連携した教育を推進しているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4月と9月の公園清掃では、町内会の方々と交流しながら活動することができた。引き続き、地域と連携しながら取り組んでいきたい。 ・6年生は日章中学校や柏丘中学校の体験学習を通して、進学へ向けて見通しをもつことができた。また、2年生の子どもたちは年間を通して白石中央保育園と交流し、小学生として年下の子どものように関わればよいか「生きる力」を学習することができた。引き続き、各学校と連携しながら取り組んでいきたい。 	A	A
	保護者参加型授業や校外学習の付添補助または日常の授業の学習ボランティアなど保護者とのつながりを意識した教育を推進しているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・参観懇談や運動会、学習発表会などにはたくさんの保護者や地域の方に来校していただいた。 ・ボランティア清掃や全校読み聞かせなどでもたくさんの保護者の方に協力していただいた。 ・次年度以降も、体育や生活科、総合的な学習の時間などで、学習ボランティアとして来校していただき、ともに子どもと関わってもらいたい。 	A	A
	防災・防犯対策等の訓練や命の大切さを見つめ直す指導により、子どもの安全意識を高めるなど、命を大切に育てる体制がとられているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練など計画的な防災・防犯に関わる訓練を実施した。(10月には児童引取訓練も実施)12月のにじいろ祭り際には、訓練ではなく実際に避難する経験もした。各役割について確認不足な面があったので、危機管理マニュアルを見直し、教職員間でも避難の仕方等を共有し、各訓練の見直しを進めていく。 ・防犯教育教材「さっぽろそなえ箱」を活用し、子どもや家庭の安全意識を高めていく。 	A	A
	児童の実態に合った個別の指導を充実し、不登校対策・「健康で文化的な生活」に対する対策を行う	A	<ul style="list-style-type: none"> ・シャボテンログを活用しながら児童の様子を見とり、児童自身悩みを抱え込まないように声掛けを続けていく。学びの支援委員会で、職員間で子どもの様子を共有しながら対応する。 ・校内支援センターを設置し、不登校児童が安心して登校できる環境づくりに取り組んだ。相談支援パートナーと連携しながら、不登校児童が教室に戻ることを目標にスモールステップの取組を考え関わっていく。 	A	A
学校関係者評価者による意見			<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校のメリットを生かし、コミュニティ・スクール化をいち早く進め、児童・学校・保護者・地域の連携による信頼関係の構築に期待する。 		
全体	学校教育目標「子どもたち一人一人が『自分は大切にされている』と実感できる教育」を意識して、個人としてまた協働で取り組んでいるか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人一人を大切に、とても熱心に子どもたちと関わることを目標に学級経営に取り組んだ。人間尊重の意識を高められるように、日々の授業や活動において相互承認の感度を高めていきたい。すべての教職員が個性を尊重し、多様性を受容し、安心・安全な風土を醸成するなど特別支援教育の視点をもって子どもたちと関わっていく。 	A	A
学校関係者評価者による意見			<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達、保護者、地域の人達から学校は信頼されているように感じている。 ・教職員の皆様の日々の懸命なご努力に敬意を表したい。今後も更なる学校運営の向上を期待する。 		

|

|